１０章　情報技術と社会

情報技術の社会的影響

情報技術の発展により、

１、場所の制約からの解放　　２、時間の制約からの解放

３、経路の制約からの解放　　４、（情報の）輸送コストをほぼゼロに

というような大きな変化がもたらされた。これにより、国という地理的要因に基づく社会の絶対性が薄れてきている。

また、情報技術は問題も生じさせている。代表的なものが著作権の問題。

ディジタルコンテンツ（ＣＤや紙のような物質的媒体によらず、電子媒体による情報のこと。音楽のデータファイル等がこれにあたる）は物質的でないために所有の概念が曖昧になり、結果著作権の侵害についての意識が薄くなりがちである。Ｗｉｎｎｙのようなファイル交換ソフトがその例。

個人と技術

技術は中立だという考え方がある。ここでは中立とは社会の形態や要望にかかわらず独立に発展するという意味である。しかし、必要な技術を社会の成員が選択することで淘汰してきたと考えると、技術の進歩は社会と無関係ではない。

このように技術の方向性を定める力を持った個人として、**情報リテラシー**が重要な意味を持つ。情報リテラシーとは、情報を目的に沿って使用できる能力であると同時に、自分の操作の裏で何が起きているのかについての大まかな想像力のことも含む。技術が高度になり、またインタフェースの改善によりなんとなく操作できるようになると、裏で何が起きているのかを知る人が少なくなってしまいがちだが、情報を批判的に見て、技術を淘汰するには情報リテラシーを身につけることが不可欠である。